

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

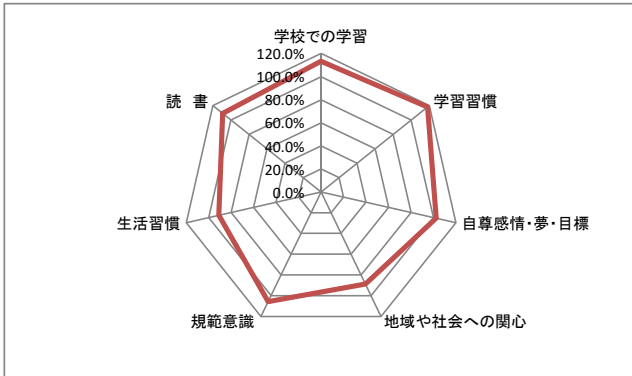
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全体的に全国平均と同程度である。「言語についての知識・理解・技能」において全国平均を上回っている問題と下回っている問題がある。	同程度である
算数	主に「数学的な考え方」に関する問題が全国平均を下回っている。	やや下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・『学校での学習』において「学級と友達の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して肯定的な回答をする児童の割合が昨年度(5年生時)より増加した。

・『生活習慣』において朝ごはんを食べることや、同じ時刻に寝ることに関する項目が低い。家庭と連携して生活のリズムの改善に努める必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全校で文を書く活動に対して、国語科以外にも朝自習中に「視写タイム」や「理科タイム」による書く活動を繰り返し行うなど教科等横断的な視点で取り組む。資料の活用においては算数科を中心に「何からどう考えたか」を伝え合う活動などを通して活用力を身に付けていくようにする。そのために授業改善チェックシートを活用し、学習展開の改善に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

児童が規則正しい生活を送ることができるよう、学期1回生活習慣を見直す機会を設ける。そのためには「藤松小生活がんばりリカード」を各家庭に配布し、保護者と担任が児童の目標が達成できているかをチェックする。学校と家庭が連携することで生活習慣の改善をしていく。